Development of a Resilience Scale for adult-onset type 2 diabetes patients- Evaluation of reliability and validity

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/37211

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

平成　25 年　8 月 23 日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号　0827022035

氏　　名　村角　直子

論文審査員

主　査（教授）　須釜　淳子　印

副　査（教授）　稲垣　美智子　印

副　査（教授）　塚崎　恵子　印

論文題名　Development of a Resilience Scale for adult-onset type2 diabetes patients :Evaluation of reliability and validity （成人 2 型糖尿病患者の療養に伴うレジリエンス尺度の開発と信頼性と妥当性の検討）

論文内容の要旨

本研究は、生活と密着した治療や合併症発症頻度が高い 2 型糖尿病患者のネガティブな出来事に柔軟に対応していく力（レジリエンス）を活用するケアに着目し尺度開発をした。方法は尺度開発の手順を用いた。尺度原案は患者教育に用いたアセスメント調査紙から質的・帰納的に 77 項目を抽出し糖尿病専門あるいは認定看護師 12 名により内容妥当性を確認し 65 項目とした。この原案を２つの病院に外来通院している 2 型糖尿病患者 162 名を対象にして自記式質問紙法にて調査した。分析方法は、項目分析、探索的因子分析（主因子法・最尤法プロマックス回転）、信頼性の検討にクロンバックα係数の算出、妥当性の検討には、基準関連妥当性にストレス対処能力測定尺度（SOC）と一般性自己効力感尺度（GSES）を用いピアソンの相関係数を算出した。その結果、分析対象者数 162 名からのデータから 6 因子 27 項目で構成される尺度が完成した。第 1 因子は「信頼して療養を任せることができる身近な人を感じる」、第 2 因子「有効な学習をしている自負」、第 3 因子「運動をしている」、第 4 因子「日々の療養に努力している誇らしさ」、第 5 因子「良くならない状態にとどまらない構え」、第 6 因子「大事な足をきれいに保っている」となった。因子分析、回転前の累積寄与率 55.31%であった。クロンバックα係数 0.898、基準関連妥当性は SOC との相関係数は 0.42、GSES との相関係数は 0.245 で両者とも相関を認め、本尺度は一定の信頼性と妥当性を持つ尺度として完成された。

審査結果の要旨

本研究により作成された尺度は、2 型糖尿病患者の教育評価に活用可能である。これまで心理的介入の評価は不安や負担感の変化などを用いてきたが、これらは糖尿病療養以外の影響を受けやすい欠点があった。本研究はその欠点を補うものとして発展可能であり、糖尿病患者教育の発展に寄与するところは大きい。公開審査における質疑では尺度原案となった構成概念の根拠、臨床応用についての質問がなされたが、その応答は論理的かつ適切であった。以上，学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき，博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。